

患者対応スキルの獲得を目的としたブレンド型シミュレーション演習の設計

中前 雅美^{*1}, 北村 士朗^{*2}, 鈴木 克明^{*3}, 都竹 茂樹^{*4}

Designing Blended Simulation Exercises to Acquire Patient Care Skills

Masami NAKAMAE^{*1}, Shiro KITAMURA^{*2}, Katsuaki SUZUKI^{*3}, Shigeki TSUZUKU^{*4}

In the medical technologists training course, a program was designed, implemented, and evaluated to teach patient care skills during clinical examinations in hospital-based practical training. The learning objectives were subdivided according to Gagné's five domains of learning outcomes, with specific strategies and evaluation methods set for each objective. Based on these goals, a blended approach combining e-learning and face-to-face simulation was used to design and develop the entire course. After the practical sessions, learners' reactions were evaluated in terms of motivation and the degree of content acquisition, particularly in their performance during simulated patient interactions. While motivation levels were high, confidence gains were slightly lower. Regarding content acquisition, over 90% of the learners successfully demonstrated appropriate patient interaction, suggesting the effectiveness of the training.

キーワード：学習成果の5分類，eラーニング，シミュレーション演習，ブレンド型，臨地実習，患者対応スキル

1. はじめに

1.1 背景

臨床検査技師（以下，検査技師）は，人体から排出，又は採取された検体の検査として厚生労働省令で定めるもの，及び厚生労働省令で定める生理学的検査を行うことを業とする医療職である [1]．法律で定められている検査技師業務のなかでも生理学的検査は，検査機器を使って検査担当者が被検者（患者）に直接検査を行うものであり，一般的な接遇だけでなく検査に特有の患者誘導や患者の身体的不調に応じた対応（以下，患者対応）などが必要である．しかし，これまでの検査技師養成課程における生理学的検査の教育目標においては，患者急変時について学ぶ [2]，という記載があるのみで，患者対応について詳細は言及されていなかった．しかし検体採取などの業務拡大 [3] に伴い，検査技師が直接患者に相対して検体の採取やデータの記録を行う機会が増え，さらに2021年のカリキュラム改正により，検査技師養成課程における生

理学的検査の授業単位数が増加し，医療機関における実習（以下，臨地実習）で生理学的検査の実施単位数が明確に規定された．特に生理学的検査の一つである心電図検査については「（実際の患者に対して）必ず実施しなければならない項目」と規定され [4]，学生のうちに医療安全や患者との良好なコミュニケーション能力を含めた知識・技能・態度が十分に備わっていることが望まれている．しかしその確認方法や評価方法等も養成施設によって様々であり，臨地実習に臨む学生の質においても大きな差が生じている [5]．そのためこれら知識・技能・態度を身につけるための有効な学習や客観的評価が必要であり，その学習設計については，患者と接することが多いほかの医療職での知見などを参考にしながら進めていくことが重要であると考えられる．

1.2 医療職養成課程の患者対応に関する先行研究

患者との関わり方が重要な看護分野では，看護過程における安楽性と安全性の保証を大前提としてい

^{*1} 神戸学院大学栄養学部 (Faculty of Nutrition, Kobe Gakuin University)

^{*2} 社会構想大学院大学実務教育研究科 (School of Professional Education, The Graduate School of Social Design)

^{*3} 武蔵野大学響学開発センター (Center for the Development of Enhanced Learning, Musashino University)

^{*4} 大阪大学スチューデント・ライフサイクルサポートセンター (Center for Student Success Research and Practice, The University of Osaka)

受付日：2025年9月1日；再受付日：2026年2月18日；採録日：2026年4月13日